

県中教研 技家(家庭)部会だより

第 33 号

発行日 平成30年3月
発行所 富山市千歳町1-5-1
富山県中学校教育研究会
編集責任者 矢崎千栄美
題 字 金山 泰仁 先生

実践的・体験的な活動を通して学ぶ

指導主事 小川 直子

調理実習の授業を参観する機会がありました。

初めてハンバーグを作ったと思われる生徒の様子を見て、実態に合わせた学習環境づくりの大切さを実感しました。

授業では、二人ずつのペアでハンバーグ作りの実習に取り組んでいました。男子二人のペアのたねは、ぼそぼそしていて、混ぜても形になりません。それを見た先生は、たねに牛乳を加えることと、「向かいのペアのたねみたいになるように」ということをアドバイスしました。二人は、向かい側で作業をしているペアの様子と比べながら、牛乳を加えたり混ぜたりを繰り返してたね作りに取り組みました。最終的には、先生に見てもらわなくても、自分たちで判断し、たねを完成させることができました。このように、生徒が自らの力で取り組むことができたのは、一つの調理台で2組のペアが同時に活動し、お互いの様子を見合う場を設定するという教師の支援があったからです。自分たちで判断する手がかりと機会を与えられたことで、生徒は、ハンバーグのたねがどのような状態になればよいのかを実感を伴って理解することができたのです。

家庭生活や社会環境の変化に伴い、子供たちの生活体験の不足が指摘されています。だからこそ実践的・体験的な活動を取り入れた学習で得た知識及び技能を、生活の中で生かしていく力が求められるのです。

現行の家庭分野の目標には、「衣食住に関する実践的・体験的な活動を通して」とあり、新学習指導要領でもその重要性が示されています。直接体験することにより、子供たちが具体的に考え、よりよい行動の仕方を身に付けることができるよう、家庭科教育の一層の充実を図っていきたいものです。
(西部教育事務所)

新学習指導要領の実施に向けて

県部長 矢崎千栄美

平成29年度の研究大会は、南砺市立福野中学校、入善町立入善中学校の両校で行われました。様々な工夫・配慮がなされた調理実習の授業、ジグソー法を取り入れた住まいの安全について考える授業は、それぞれの地区での練り上げのもと行われ、大変参考になりました。授業に当たり多くの先生方にご苦勞いただきましたことを改めてお礼申し上げます。

来年度から先行実施となる新学習指導要領の家庭分野の目標は、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成する」です。「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ」とは、家庭分野が学習対象としている家族や家庭、衣食住、消費や環境等に係る生活事象を、「協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等」の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造するために、よりよい生活を工夫することとあります。

一昨年に引き続き授業力向上アドバイザーとしてお越しいただいた大阪体育大学特任教授荒井紀子先生から、「思考力、判断力を育てる家庭科の授業づくりー新学習指導要領のもとでー」の演題で講話をいただき、理解を深めることができました。

「生活の問題解決の学」としての家庭科を目指すために、授業プランをデッサンする「学びの構造図」作成に英知を集結し、ストーリー性のある学習過程の中で知識や技能を習得し、思考力・判断力・表現力を身に付けることができる魅力溢れる授業を工夫・創造していきたいものです。

(射・小杉南中)

第61回 研究大会報告

東 部 地 区 10月12日(下・入善中)

入善町立入善中学校において笹島裕子教諭による研究授業が行われた。「家族が安全に生活するための住まい方について工夫しよう」を学習課題に、家庭内事故に焦点を当て、幼児や高齢者等、誰もが安全に暮らすために家庭で実践できる方法を考えた。

生徒は、事前の課題として自分や家族が経験した家庭内事故と事故防止の対策について写真や絵等を使ってレポートにまとめる活動をしていた。本時では、事前のアンケートによる実態調査から共通のモデルとなる家族とその住まいを設定し、知識構成型ジグソー法を用いて小グループでの話し合い活動を行った。1回目のグループ活動では、年代別に分かれ、生徒が事前に調べたレポートを持ち寄り、話し合いをした。2回目のグループ活動では、住空間別に分かれ、1回目で得た情報を活用しながら話し合いをした。さらに、全体に発表する場をもち、共有することで、生徒は家庭内事故を多角的にとらえ、家庭で実践できる対策について考えを深めることができた。

東部教育事務所の齊藤紀子指導主事からは、「事前のレポートを実物投影機で提示することやカラー印刷シラミネート加工された書き込める鳥瞰図、付箋の色分け等、視覚的で操作的に話し合いを深める手立てが工夫されていた。全ての生徒が意欲的に参加する様子が見られ、言語活動が充実していた。まさに協働的な学び合いがなされていた」との助言をいただいた。また、これからの家庭科の方向性を示唆していただき、大変学びの多い研究大会となった。

亀田 なえ (下・入善西中)



西 部 地 区 10月11日(南・福野中)

南砺市福野中学校において鈴木恵美教諭による研究授業が行われた。授業は、火加減に注意して、中まで火が通るようにハンバーグを焼くことをねらいとした調理実習であった。クラスの生活班を基に2～3人ずつの16グループで活動を行った。

1つの調理台を2つのグループが向かい合うように使用する形で行われ、チャイムと同時に調理実習がスタートした。



調理実習台の上には、材料や調味料、使用器具・食器等を分かりやすく図示した説明書が用意されており、分からないことをすぐ確認できるように整えられていた。調理経験の少ない生徒には有効な手立てであり、互いに相談しながら自主的に調理実習を進めていく様子が見られた。

西部教育事務所の小川直子指導主事からは、次のような指導助言を受けた。

- ・イラスト入り説明書は、視覚に訴える効果があり、生徒はイメージしやすかった。手順や調理の仕方について、なぜそうするのか話し合いながら作業を進めており、自ら課題を解決しようとする姿勢が感じられた。
- ・授業終盤の次時の授業につながる有効な問いかけにより、生徒の課題意識が高まり効果的であった。

授業力向上アドバイザーの荒井紀子教授からは、「思考力、判断力を育てる家庭科の授業づくり～新学習指導要領のもとで～」と題して講話いただいた。ストーリー性のある授業を展開していくことで生徒に課題意識が芽生え、課題解決への意欲が高まっていくと教えていただいた。

二川 昌子 (射・小杉中)

各地区の取組から

富山市中学校教育研究会

1月の定期部会では、富山市立藤ノ木中学校において、富山エクセルホテル東急の料理長後藤浩実氏を招いて、実習「地元食材を用いた調理」を実施した。新学習指導要領の実施を見据えて、食育の一層の推進を図るとともに、「地域の食文化」や「食品の選択と調理」に視点を置いた実習をしたいと依頼した。

〈メニュー〉

魚介のミートソーススパゲティ

里芋のグラタン

かぶのマリネ

後藤氏は、「富山は魚介類が豊富であることや冬の野菜として里芋やかぶが手に入りやすいことから、このメニューを考案した。これをもとに生徒向けに様々なアレンジができるのではないかと話された。



部員は、4人1班となり、普段とは立場を変えて実習に臨んだ。専門家から、日頃聞くことのできない調理のコツやポイントをその場で教えてもらうことができた。試食をしながら、部員の質問に答えていただくとともに、お客様に料理を提供する際の貴重なお話も聞くことができた。

部員の感想には、「地域の食材を題材にすることで、食材の選び方と地産地消を一緒に学習できる」という、今回のねらいに沿ったものの他「他者と協力しながら、学習している生徒の気持ちが分かった」「実習中の適切な援助の仕方に気付いた」「本物に触れることの大切さを感じた」などがあった。明日からの授業に生かすことができる貴重な体験となった。

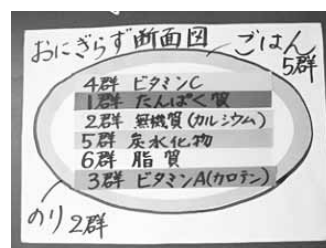
城石 直子 (富・藤ノ木中)

高岡市中学校教育研究会

高岡市では、「工夫し創造する喜びや成就感を味わうことのできる教材教具の開発」をテーマに研究協議を進めてきた。今年、高岡市立牧野中学校において、沢田富美子教諭による授業実践「おいしくてヘルシー！わたしたちの『おにぎらず』」の研究発表が行われた。

授業は、班ごとに計画を立て、2種類の「おにぎらず」を作るという内容である。1年目の実践では、生徒自身が5種類の具材を決めるため、調理方法や栄養バランスを班ごとに検討した。生徒の活発な意見交換が行われ、自由な発想が生かされた授業となった。一方で、食材の種類が多くなると、食品の取り扱いや調理方法についての指導が十分に行き届かず、生徒個人の生活経験が大きく影響してしまうという課題が見えた。

2年目の実践では、教師が具材を選定し、「必ず使うもの」と「使ってもよいもの」に分け、計画を立てる内容に改善した。「調理方法」「食材の組合せ」「選択できる食材」等生徒が考える手順を残しておくことで、意欲をもって授業に取り組む様子が見られた。また、食材を選定しておくことで、1年目の課題も解消された。今後の課題として、食材の制限がある中でも、生徒の想像力をより引き出す手立てを検討していくことが挙げられた。



↑実際に授業で使われた教材

矢野 優子 (高・伏木中)

退職にあたって

富山市立南部中学校 西中美千子



いよいよ3月で定年退職を迎えることになりました。技・家（家庭）部会の皆様には、大変お世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。数々の研究授業や研究発表等、皆様と切磋琢磨しながら挑戦できたこと、とても勉強になりました。また中教研の大会や東海北陸大会等、市部長や県部長としてたくさんを経験させていただきました。本当に素敵な思い出ばかりです。今は「やり切った、という満足感と成就感、無事「やり終えた、という安堵の気持ちです。

この私たちの技・家（家庭）部会是一个の組織ではありますが、仲間たちです。同志です。一人一人の個性を発揮しながらも、みんなの力を出し合っ問題解決を図っていくという部会です。これからもその仲間意識を大切に「研究熱心な部会」という伝統を守ってほしいと思います。

とにかく、私はこの「家庭科」という教科が大好きで家庭科の教員であることに誇りをもっています。「家庭科」は決して難しいことを学ぶのではなく、生活に身近なことを学ぶものです。自分の生活をよりよくする教科であり、生き方に関わる教科でもあります。今後もこの魅力ある教科の研究を、皆様の熱い思いでさらに大きく積み重ねてほしいと願っています。

本当に、長い間ありがとうございました。



新入会員紹介

富山市立東部中学校 黒地 忍



教員生活17年目となりました。採用されてからずっと特別支援学校で勤務をしてきたのですが、一念発起して自ら希望して、今年から中学校の特別支援級で担任をさせていただいています。合わせて全クラスの家庭科を受け持っています。何もかもがこれまでと異なり、右往左往する毎日を今でも過ごしています。

17年ぶりに家庭科の授業をして思ったことは、まず教科書が随分変わっていて驚きました。変わったのは教科書だけでなく生徒の質も変わったと思います。グループで話し合いをさせることが多いですが、以前より話し合うことが上手になっていて感心しています。ただ、話し合った結果をどのように発表させれば効果的なのか、いつも悩んでいます。また、どのような課題を提示すればよいか、授業の最後のまとめをどうするか、など悩みは尽きません。中学校の授業もなかなか難しい…。

今は、自分自身がチャレンジを楽しみながら授業づくりを行っているところです。生徒たちが面白いと感じ、中学3年間で生活力を高められるような家庭科の授業を目指します。